

ト
レ
ン
ド
★

地域の特色を生かした結婚式「ふるさとウェディング」が人気だ。庭園や城跡などの名所で挙式したり、披露宴で郷土料理を提供したりし、特別な1日を演出する。人口減少が進む地域では、式をきっかけに活性化に取り組むケースも始まった。

国の特別名勝・栗林公園(高松市)の掬月亭。歴代藩主も使った茶室に10月中旬、「おめでとう」「お幸せに」と祝いの声と拍手が響いた。式を挙げたのは高松市の中村伸基さん(30)と朱里さん(31)。「生まれ育った高松を象徴する場所でこの日を迎えられたことは、何よりうれしい」と話し、花嫁行列で園内を歩いて観光客からも祝福を受けた。式を企画したのは、同市のブライダル会社「フェアリー・テイル」だ。玉藻公園の披雲閣(高

■ ふるさとウェディング

栗林公園内を行列して歩く新郎新婦ら(高松市で)



一人の門出名所で祝福

松市)や金刀比羅宮(琴平町)など県内の十数か所でも行っており、過去5年で80件以上を手がけた。県外に住む出身者からの申し込みが多いといい、8月からは栗林公園内の建物で、オリブ牛や県産野菜にこだわった食事を出す披露宴も始めた。高松市も、市内6か所で挙式したカップルに「結婚証明書」を発行して後押しする。

多度津町の一般社団法人「多度津つながりプロジェクト」は、6月にふるさとウェディングを始めた。ホテルなどの式場がない町内では、20年以上も式が行われてこなかった。同法人は「若

者を呼び込む仕掛けになれば」と古民家や同町沖の佐柳島などで式を企画。町にUターンしてもらえよう、空き家の活用や雇用創出のための特産品づくりも進める。

ふるさとウェディングは全国でも広がる。滋賀県彦根市の国宝・彦根城で写真撮影などを行う「彦根婚」や、金沢市の茶屋が並ぶ地区を歩く「金沢町屋和婚」などが人気で、京都府舞鶴市の貸衣装店「キクヅル」は全国の「ご当地婚」をウェブサイトで紹介する。久下幸典社長は「地元に着る若者が増えており、町の活性化のため事業に乗り出す自治体もある。これからふるさとウェディングは広がるだろう」と話している。(高松総局 児玉圭太)

ふるさとウェディングは、ブライダルファッションデザイナーの桂由美さんが5年ほど前に提唱した。衣装を着た新郎新婦が街で市民から祝福を受ける「住民参加型」

も多い。桂さんが会長を務める全日本ブライダル協会(東京)は2012年から毎年、地域の魅力を生かした結婚式を表彰している。